

市民公開講座 「認知症サポーター養成講座」

日時★平成20年

3月9日(日)

15:30~17:00

会場★静岡県コンベンションアーツセンター

グランシップ

交流ホール(6階)

主催：第10回日本在宅医学会大会

大会長 石垣泰則 城西神経内科クリニック

共催：財団法人在宅医療助成勇美記念財団

協力：パワー浜松ロータリークラブほか

参加無料

事前の参加申し込みは不要です。
ただし、座席数には限りがありますので
ご了承ください。

講師 遠藤 英俊

国立長寿医療センター包括診療部長、医学博士。認知症専門医で、さまざまな認知症予防プログラムの開発、研究を主宰し、地域への普及に力を注いでいる。著作に『いつでもどこでも回想法』、『認知症・アルツハイマー病がよくわかる本ー認知症と上手につき合う』(主婦の友社)などがある。

講師 奥山恵理子

特定非営利活動法人ウェルネスサポート副理事長、富塚パークタウンデイサービスセンター・上島ハーモニータウンデイサービスセンター統括所長、浜松早期認知症研究所特任研究員、キャラバンメイト(認知症サポーター養成講座講師)。認知症予防・維持・改善プログラムを企画・実施、研究すると共に、認知症早期発見・予防を推進する活動を行っている。

認知症を防ぐ地域づくり

現在、認知症の人は169万人、20年後には300万人を超えるものと予想され、社会問題として大きく浮上してくるものと思われます。そこで厚生労働省では「認知症を知り、地域をつくる10か年」を策定し、「認知症サポーター100万人キャラバン」キャンペーンを開始しています。

この主旨に沿い市民公開講座「認知症を防ぐ地域づくり」が開催されます。

認知症サポーター養成講座<勇美記念財団助成>

1. 「認知症を防ぐ地域づくり」(60分)

講師 遠藤 英俊

2. 「認知症サポーター100万人

キャラバンについて」(30分)

講師 奥山恵理子



第10回日本在宅医学会大会実行委員

石垣泰則 城西神経内科クリニック

大城 一 遠江病院

レシャード・カレド レシャード医院

北西史直 トータルファミリーケア 北西医院

福地康紀 東新田福地診療院

野原正平 静岡県難病相談支援センター

難病ケア市民ネットワーク

大熊泰之 順天堂大学医学部付属

静岡病院 脳神経内科

水上泰延 遠州病院 病院長

深江久代 静岡県立大学短期大学部

服部信孝 順天堂大学医学部付属

順天堂医院 脳神経内科教授室

大会長 石垣泰則

城西神経内科クリニック院長

会期：平成20年3月8日(土)~3月9日(日)

会場：静岡県コンベンションアーツセンター

詳細 <http://www.jahcp10th.jp>

大会本部

〒420-0061 静岡県静岡市葵区新富町5-7-6 城西神経内科クリニック

TEL: 054-273-7000 (担当：高村・松浦)

大会運営事務局

〒422-8034 静岡市駿河区高松3044-36 (有)エリアネットコム

TEL:054-237-9625 (担当：豊田・中道)

第10回日本在宅医学会大会後援：日本医師会 静岡県医師会 静岡市静岡医師会 静岡県看護協会 静岡県作業療法士会 静岡県理学療法士会 静岡県言語聴覚士会 静岡県歯科医師会 静岡県薬剤師会 日本プライマリケア学会 静岡県難病団体連絡協議会 静岡市 パワー浜松ロータリークラブほか

市民公開講座プログラム

平成 20 年 3 月 9 日（日）

静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」6階 交流ホール

15 : 15	開場：入場開始（アンケート用紙・資料配布）
15 : 30	開会：大会長挨拶 遠藤英俊氏講演 「認知症を防ぐ地域づくり」 奥山恵理子氏講演 「認知症サポーター100万人キャラバンについて」 質疑応答
17 : 00	終了：退場（アンケート回収）

市民公開講座 「認知症サポーター養成講座」

このたび勇美記念財団との共催でとり行われた「日本在宅医学会市民公開講座 認知症サポーター養成講座」は約 140 名の一般市民の参加者を集めました。今後予測される認知症患者の増大は、わが国の医療の問題のみならず、社会的にも深刻な問題であります。そのため、認知症を特殊な疾患として排斥するのではなく、誰しも自分自身の問題として考え、地域の中で認知症を正しく理解し、社会に受け入れることが必要です。今回お招きした講師は、これまで積極的に認知症サポーター養成講座に取り組んできた奥山恵理子氏と国立長寿医療センター遠藤英俊氏であり、今回の市民講座の主旨、目的を正確に理解していただき、終了時のアンケート調査の結果も非常に好評でした。

在宅医療は単に患者の居宅で行われる医療というだけでなく、私たち在宅医学会会員は在宅医療そのものが地域の力を高める潜在的可能性を持っていることを確信しております。在宅医療を実践する医師は community based medicine を理解し、「患者は地域で生きる」ということを支援する立場でなければなりません。私たちはこのたび市民公開講座を共催させていただき、微力ではありましたが、地域のための啓蒙活動が出来たことに心から感謝いたします。今後も勇美記念財団と共に在宅医療を推進し、市民活動としての在宅医療を実践するために一步一步積み重ねてまいりたいと思います。

勇美記念財団と関係者の方々のご理解ご協力と今大会が盛会に終わることが出来たことに心から感謝申し上げます。

第 10 回日本在宅医学会大会
大会長 石垣泰則